

くるりんこは【きずなループ事業】を推進します

3,11を境に、私たちの価値観が大きく変化しています。中でも環境は重要なテーマとして考えられ、特にエコに対する意識とリサイクルに関する取組みは、国民一人一人にとって身近なものになりました。

これまで日本国内で利用されず輸出されてしまっていた廃電線を、仕事の不足に悩む障がい者施設の安定的な仕事にする【きずなループ事業】の仕組みはそうした中から生まれました。これによって、障がい者の方々の自立支援と、資源の国内リサイクルが促進される事が期待されます。

一般企業では事業採算性の確保が難しく、敬遠される廃電線リサイクルですが、銅は必要不可欠な資源のため「売れない」ということがないので、納期や時間の制約がありません。そのため自分たちのペースで仕事のできる障がい者施設の仕事として、優れた収入源となります。また、障がい者の方の中には類まれな集中力や、単調な作業にもめげない忍耐力をもった方々もおられ、廃電線リサイクルの電線剥離の仕事は、むしろ好ましい仕事ともいえるのです。



ぜひ【きずなループ事業】にご参加ください。

障がい者施設様

【きずなループ事業】にご興味を持たれた障がい者施設様、ぜひお気軽にご連絡ください。事務局の担当員が様々なご相談をさせていただきますので、安心して廃電線リサイクルを作業として導入していただくことができます。

一般企業様

【きずなループ事業】では、リサイクルする廃電線を提供していただける一般企業様を募集しております。詳細は窓口担当員が丁寧にご案内させていただきます。一般企業様の積極的な参加が、地域の福祉環境に明るい光をもたらしますので、ご検討のほどよろしくお願いたします。

きずなループ事業について、さらに詳しくお知りになりたい方は、きずなループ事業公式ホームページ <http://kizunaloop.com/> で検索

多くの企業様よりご協力をいただきありがとうございます。感謝の気持ちをかたちにして、地域の福祉向上に役立ててまいります。

きずなループ事業は経済産業省平成25年度東日本大震災復興ソーシャルビジネス創出促進事業（ソーシャルビジネス新事業創出事業）採択事業です。



くるりんこ No.06

発行：NPO 法人 くるりんこ

【本部事務所】〒966-0086 福島県喜多方市西四ツ谷189番地
TEL:0241-21-9551 FAX:0241-21-9552
【郡山事務所】(きずなループ事業事務局) 〒963-8061 福島県郡山市富久山町福原字宝田46-1
TEL:0120-536-672 FAX:024-953-6769
【ステップボード】(障がい者福祉サービス事業所) 〒969-3537 福島県喜多方市塩川町四奈川字上川原2659番地
TEL:0241-23-7400 FAX:0241-23-7401

福祉施設で働く障がい者の方の 毎月の収入をご存知でしょうか。

障がい者福祉サービス事業所「ステップボード」所長 一重光治



厚生労働省の調査によりますと、就労継続支援B型事業所・通所授産施設、小規模通所授産施設といった障がい者施設で自立を目指して働いておられる障がい者の方の月収は、全国平均で14,838円(平成26年)です。

とても残念なことですが、障がい者施設が請け負っている仕事は決して効率の良いものとはいえないのが現実です。

その中でも、福島県は平均を大きく下回り、平成26年時点では、全国ワースト10位の13,571円となっていました。

そして現在、東日本大震災の企業活動の低迷や混乱のために、状況はより悪化しつつあります。私たちがお付き合いさせていただいている障がい者施設では、平均月収が一時7,000円程度まで低下していきました。

「きずなループ事業」は、こうした状況を改善するために生まれました。

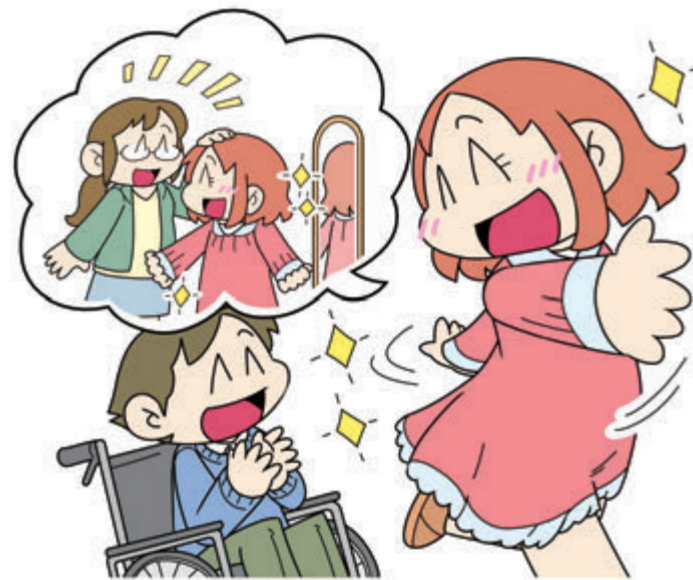
以前から私たちは、新興国の経済成長により少なからぬ資源物が海外へ輸出されている現状を憂慮してきました。例えば電気工事や解体工事に伴って発生する廃電線の一部は、日本国内での処理コスト(人件費・設備投資)が嵩むことが原因でその多くが輸出

されていますが、輸出先の低廉な人件費や緩やかな環境規制を背景に「公害の輸出」に近い現状が見受けられたのです。

そこで私たちは、障がい者施設に簡便なリサイクル機器を貸与し、地元再生資源業者の指導に従って作業を行うことで、施設を利用する障がい者の方々に就労の場を提供するとともに、再生資源の野放図な海外流出を抑制し、併せて資源物の国内還流・地元でのリサイクルを促進する「きずなループ事業」の仕組みを構築するに至りました。



今後とも「きずなループ事業」の主旨をご理解いただき、私たちの取組みへみなさんのご賛同とご支援を賜りたく、お願いいたします。



●●ヒロシ君の訪問日記●●

ぎずなループ事業に参加して下さっている障がい者施設様への訪問レポートです。今回は社会福祉法人「ふれあいの家」さんに遊びに行ってきました。(福島県喜多方市)

得意な分野は任せて！

カ ナ：ヒロシ兄ちゃん、こんにちわ！
ヒロシ：やあ、カナちゃん、今日はとてもうれしそうだね。

カ ナ：お母さんにね、褒められたの。さっき学校から帰ってお着替えしたとき、着替えが上手になったねって……

ヒロシ：よかったね、とってもうれしいね。

カ ナ：ヒロシ兄ちゃんもうれしそうだよ。

ヒロシ：今日も就労支援の施設に遊びの行って来たんだけどね……

カ ナ：障がいのある人達がお仕事やお勉強しているところだよ。

ヒロシ：そう、喜多方市にある社会福祉法人「ふれあいの家」さんでお話を聞いてきたんだ。

カ ナ：どんなこと聞いてきたの？

ヒロシ：おもしろいことだよ。障がいのある人たちは、社会に出てみんなと一緒に仕事をすること
な苦手な人が多いっていうのは知っているよね。

カ ナ：知ってるよ。

ヒロシ：そんな人たちのなかにも、すごい能力の人がいるんだって。

カ ナ：お空を飛んだりするの？

ヒロシ：いやいや、あんばいじゃないからそれはないけど、あまり他人と話すことが得意じゃ
ない自閉症の人に、ハンダ付けのお仕事を頼んだら、何枚でも教えられたように
正確につくることができる人がいるんだって。

カ ナ：機械のように……？じゃあ、どらえもんと同じだ。

ヒロシ：う～ん、違うけど……、他にもね、お皿に何枚でも全く同じようにお魚
を描く人もいるんだって。絵皿っていうんだけどね。

カ ナ：みんなお仕事好きなんだね。

ヒロシ：障がいのある人は、一人ひとり個性が違うから、なかなかお仕事ができ
ない人もいるんだけど、施設の職員の方たちは、そのような障がいのある
人ができるようなお仕事をいつも探しているんだって。

カ ナ：ヒロシ兄ちゃんの施設でしている【銅線剥離エコビジネス】のお仕事もそう
だよ。

ヒロシ：その通りだよ。「ふれあいの家」さんでも【銅線剥離エコビジネス】のお
仕事を手伝っていただいているんだ。機械も今は「ふれあいの家」
さんの施設にあるんだけど、最初の頃は僕たちの施設に來
て手伝ってもらっていたんだよ。

カ ナ：わざわざ来てくれたの？

ヒロシ：職員の方が、外の事業所さんで新しいことを体験して
欲しいと考えて、園外作業として職員の方と一緒に
来てくれたんだ。

カ ナ：みんなで来たの？

ヒロシ：最初は2名だけだったんだけど、その人たちが「こん
なことして来たんだよ！」って、イキイキとみんなにお
話をしたら、他の人たちも興味を持ったんだって。

カ ナ：じゃあ、みんなで来るといいのね。遠足みたいで楽しいよ！



自分のペースで能力発揮だ！

ヒロシ：でも、それは難しいので「ふれあいの家」さんで機械を入れる
ることになったんだ。

カ ナ：みんなで【銅線剥離エコビジネス】のお仕事ができるね。

ヒロシ：そう！機械を目の前にしたら、他の人たちもお仕事に対する意欲が変わっ
て「僕がやる、僕がやる」というふうになったんだって。

カ ナ：機械をいっぱい用意したの？

ヒロシ：それは無理だったので、順番待ちで作業をしたそうだよ。

カ ナ：【銅線剥離エコビジネス】のお仕事ってそんなに楽しいの？

ヒロシ：電線の外側のビニールなどを剥がして、銅線と分ける作業で単純に思えるけ
ど、長さとか太さ、種類などが違ういろいろな電線があるので、自分で考えな
がら分けたりして作業できるのが楽しいみたいだね。自分でやったという自信
がつくんだね。

カ ナ：カナもお洋服をきちんと着られるようになったから、おしゃれできるのが楽しいよ。

ヒロシ：カナちゃんも自信がついたんだね。とてもいいことだよ。それに【銅線剥離エコビジネス】
は、機械を使って作業をするので不良品が出ないこともよるこばれてるんだ。障がいのある
人たちのお仕事は、例えば袋にシールを貼ったりとかあるんだけど、シールがズレてしま
ったりとかで、やり直しが必要になってしまう。だから失敗のないお仕事のほうがストレ
スにもならなくていいらしいんだ。それに銅線はちょっと重いので、力のある人に運搬
のお手伝いをお願いすると「よっしゃ！」という感じで、笑顔で張りきって手を貸してくれ
たりするので、施設の中が元気になるって職員の方が言った。

カ ナ：そういえば……、ノ……ロ……、ノル……？

ヒロシ：そう、【銅線剥離エコビジネス】は、ノルマや納期がないのも障がいのある人たちの仕事としては
適しているんだよ。よく覚えてくれたね。

カ ナ：いっぱいお仕事できるといいね。

ヒロシ：だからもっともっと廃電線が必要なので、多くの会社のみなさんに協力をお願いするもの僕の仕事な
んだよ。おかげさまで応援していただける会社も少しずつ増えてるから、障がいのある人たちによるこ
んでもらえるようになってきてるんだ。
まだまだ頑張るよ！

カ ナ：カナもお手伝いできることある？

ヒロシ：そうだね。「ふれあいの家」さんでは、施設
に通って来ている人たちが、いつまでも家族
の方と仲良く暮らして欲しい、長生きして欲し
いって考えているんだ。だからカナちゃんもお母
さんやお父さんといつまでの仲良くして欲しいな。

カ ナ：それなら大丈夫だよ。お母さんもお父さんも大好き
だもん。

ヒロシ：そうだね。それが一番の親孝行だね。

